

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで*
定時株主総会 毎年3月
剰余金配当基準日 中間配当 6月30日
期末配当 12月31日
※その他、必要がある場合には、あらかじめ公告の上、臨時に基準日を定めます。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
同事務取扱場所 〒100-8212
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711(フリーダイヤル)

(電話お問い合わせ) 郵便物送付先
公告の方法 電子公告により当社ホームページ
(<http://www.tokki.co.jp>) に掲載いたします。
ただし、事故・その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、官報に掲載いたします。

*当社は、平成21年9月29日開催の定時株主総会で「定款一部変更の件」につき承認をいただき、決算期(事業年度の末日)を6月末日から12月末日に変更いたしました。同決算期(事業年度の末日)の変更に伴い、第43期においては、平成21年7月1日から平成21年12月31日までの6ヶ月の変則決算となります。

株主さまの各種お手続きは、原則としてお取引口座のある証券会社経由で行っていただいておりますので、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

なお、特別口座に記録された株式についてのお手続き用紙は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。

■電話(フリーダイヤル) 0120-244-479

■ホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

株主のみなさまの声をお聞かせください

当社では、株主のみなさまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 9813

いいかぶ

検索

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。

 空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を差しさせていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL: 03-5777-3900(平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL: info@e-kabunushi.com

ホームページのご紹介

当社のホームページでは、株主・投資家のみなさまに向けてIR情報の他、ニュースリリースによる最新情報や事業内容などを分かりやすく発信しておりますので、ぜひアクセスしてください。



TOPページ

<http://www.tokki.co.jp>

【株主のみなさまへ】

トック株式会社 第43期 報告書

平成21年7月1日~平成21年12月31日



TOKKI Business Report



トック株式会社

〒954-0076 新潟県見附市新幸町10番1号
TEL.(0258)61-5050



地球環境に配慮した大豆インキを使用しています





代表取締役社長
津上 晃寿 (つがみ てるひさ)

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清
栄のこととお慶び申し上げます。

第43期報告書をお届けするにあたり、当期の業績
と来期見通しについてご報告させていただきます。

MISSION

独創性ある技術によって社会に貢献してまいります。

- 産業界の自動化、効率化に貢献する
- 真空応用技術を基に電子産業に貢献する
- 環境・安全をテーマに産業界に貢献する

当期の業績について 次なる成長に向けた足場固め

当期の当社関連市場を概観いたしますと、有機ELディスプレイ市場は、深刻な世界同時不況の影響により凍結・延期されていた新規設備投資の需要が、韓国や台湾の大手パネルメーカーを中心に再開する動きが見られました。また、中国のテレビメーカーが有機ELディスプレイ市場に参入する動きも顕著となるなど、投資環境が回復基調へ向かう兆しが見えてまいりました。一方、太陽電池市場は、スペインショック等の影響により、一時的に需要が低迷いたしました。当社が関わる化合物太陽電池市場は、積極的な設備投資計画の発表もあり、比較的堅調に推移した年度となりました。

このような状況下、当期を平成22年以降の“次なる成長に向けた足場固めの期”と位置づけ、経営構造改革を更に加速させるとともに、有機EL関連事業では次世代の市場に向けた研究開発と、既存顧客への営業強化、中国を含

む新規顧客の開拓活動を展開してまいりました。また、太陽電池関連事業につきましては、次期設備投資需要に対応した開発の加速と営業・サービスサポート機能の強化を図ってまいりました。子会社が営むNC工作機械等販売事業においては、年末までに廃止する予定でありましたが、更なる事業の選択と集中を図るため、当該事業を含め、子会社の全事業を譲渡する方向にて推進してまいりました。また、経営の効率化と本社機能の強化を目的として、東京にあります本店を当社の主力生産拠点である見附事業所(新潟県見附市)に移転いたしました。

その結果、受注高は73億74百万円と前年同期に比べ5億81百万円の増加、売上高は48億92百万円と前年同期に比べ4億48百万円増加いたしました。利益面におきましては、特に新規性が高く利益率の比較的低い大型装置の売上が大きなウェイトを占めたことにより、売上総利益は2億11百万円となりました。また、次世代装置の研究開発着手に伴う経費増もあり、営業損失は4億85百万円、経常損失は4億65百万円、当期純損失は4億72百万円となりました。

なお、当期は決算期の変更に伴い6ヶ月の変則決算となっております。

来期の見通しと取り組み方針について 継続的安定成長路線への転換 ～トッキ成長元年～

来期の経済情勢は、先行きが不透明ながらも各国とも

穏やかな回復過程にあり、全体的にプラス方向に成長する、変化の始まりの年になると思われま

す。来期は“トッキ成長元年”と位置づけ、「①安定した黒字体質の定着」と「②中長期成長を支える事業基盤の構築」の2つを経営目標として掲げ、積極的に推進することで、継続的安定成長路線への転換を図ってまいります。

具体的には、

①真の黒字化体質へ向けて

原価予算の重点管理、製品技術の新規性評価力の向上(製品実現リスク低減活動の推進)、設計改革の加速(共通設計の推進と流用率の向上、VE手法の導入や設計資産の活用)

②継続的安定成長へ向けて

中期成長を支える製品開発の加速と受注の確保、環境変化に応じた迅速かつグローバルな営業活動の展開、差別化技術の蓄積と知的財産化の更なる強化、国内外のサービス・サポート体制の強化

③企業品質の向上に向けて

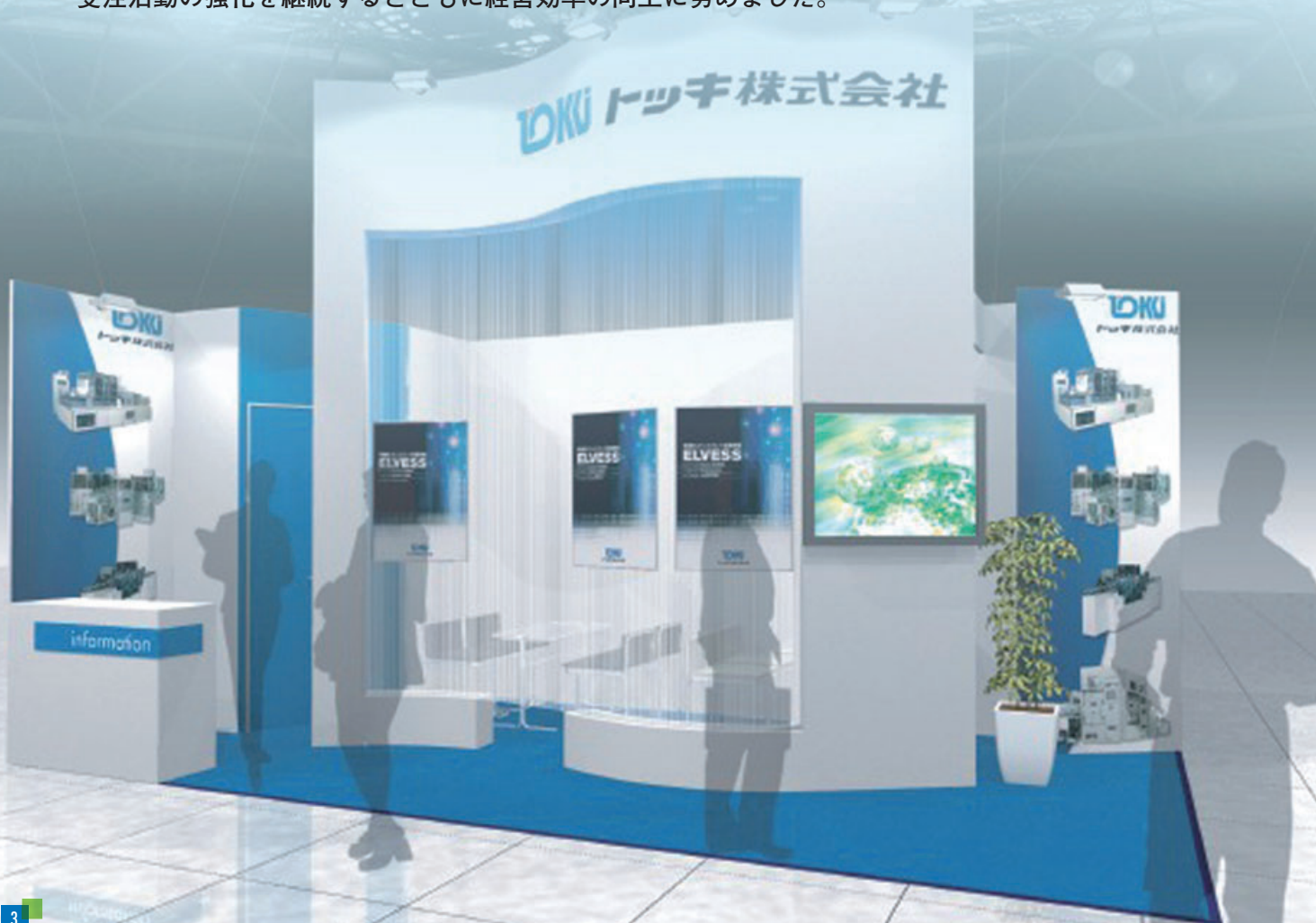
経営管理機能の強化、環境方針・コンプライアンスの徹底以上を追求してまいります。

これらの取り組みにより、来期の売上高は120億円、営業利益と経常利益はそれぞれ1億円、当期純利益は10百万円を計画しております。来期は、安定した黒字体質を定着させるとともに、“トッキ成長元年”として継続的安定成長路線への転換を図り、力強く前進してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、何卒変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

次なる成長に向けた足場を固めるために

当社は、積極的な展示会等への出展による受注活動の強化を継続するとともに経営効率の向上に努めました。



平成 21 年

7月

7月1日
当社連結子会社であるトッキ・インダストリーズ株式会社と株式会社トッキテクニカが合併

7月27日
平成21年6月期決算発表
(8月6日決算説明会開催)

8月

9月

9月16日~18日
日本唯一の真空周辺関連機器専門展『真空展2009』へ出展

9月29日
定時株主総会開催

10月

10月26日
第1四半期決算発表
10月28日~30日
フラットパネルディスプレイおよび製造装置・部品・材料の総合展示会『FPD International 2009』へ出展

11月

12月

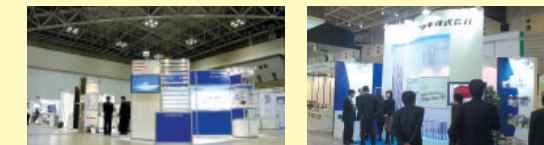
12月7日
本店所在地を変更

TOPICS.1

展示会・イベントに出展し、当社製品・技術をアピールしました。

当社は受注活動の強化を図るため、積極的な展示会への出展を行っています。

9月に開催された日本唯一の真空周辺関連機器専門展である『真空展2009』では真空業界に存在感を示し、10月の『FPD International 2009』ではお客様と受注へ向けた具体的な商談を行いました。



TOPICS.2

本店所在地を変更し、本店を移転しました。

当社は、平成21年12月7日より本店を東京都中央区八丁堀から新潟県見附市へと移転しました。本店移転により、経営管理機能の集約による効率化とコミュニケーションの向上が図られました。

新住所：〒954-0076 新潟県見附市新幸町10番1号
電話：(0258) 61-5050 (代表)
ファックス：(0258) 61-5980



新たな技術で更なる成長を目指すお客様のために 最適な「解」を追求しています。

営業技術統括部 技術企画部 松島 潤 (まつしま じゅん)
技術推進グループ 担当課長

半導体等の製造装置メーカーを経て、平成20年に入社。主にアジア地域の営業を担当。

私は、技術企画部の技術推進グループに所属しており、営業技術として日々お客様とダイレクトに接し、当社の扱う有機ELディスプレイ製造装置や薄膜太陽電池製造装置を中心とした真空技術応用装置等について、お客様のご要望を踏まえ、技術的な営業提案を行うことを業務としています。営業先である企業はエリアごとの担当となっていて、私はアジア地域をカバーして営業を行っています。

私は営業職が専門となりますから、お客様は工場の技術



東京オフィスの様子。営業の拠点として顧客との商談や打ち合わせなどを行う。

者や開発者あるいは購買担当の方が多いので、技術的に専門性の高い内容の打ち合わせを行う際には、グループ内にいる技術者とともに対応を行っています。

日々業務を行う中で難しいと感じていることは、私たちの扱う技術は、最先端のまだ確立されていない技術であることが多いので、お客様から求められている答えを模索しながら業務を進めていかなければならないという点です。ですから、私たち営業技術に必要な力は、お客様からのご要望を、いかに正確に技術者に伝え、そしていかに最適な解答を導き出すか、ということにつきます。そのためには、社内の技術者だけでなく、さまざまなお取引先と協業を図るなど、ありとあらゆるネットワークとコミュニケーションを駆使することになります。商談の内容にもよりますが、概ね3ヶ月から半年くらいの時間をかけて内容を練り上げてお客様に提案する段階に到達するのですが、受注してからも納品までには長い時間を必要とする場合が多く、そこに至るまでに協力をしてくださった方々の力なくして語

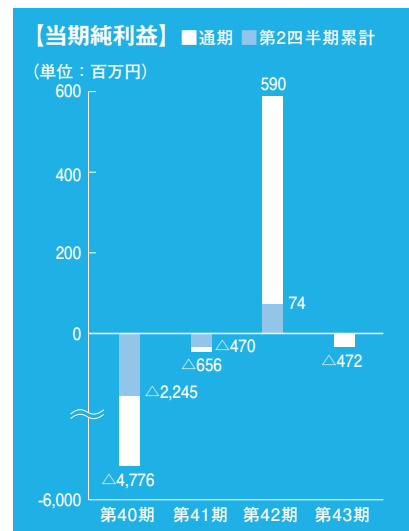
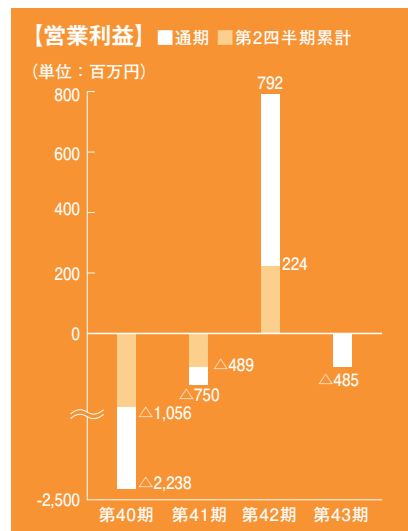
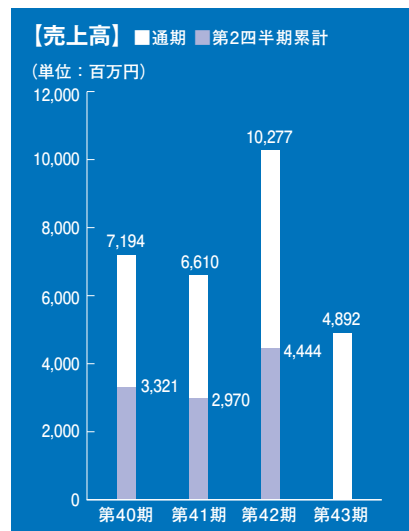
ることはできません。

このように、私たちはさまざまな方々の力や経験を結集するという、いわばコーディネーターとしての役割を果たしているわけですが、私には特に心がけていることが一つあります。それは、お客様からいただく新たなご要望に対し、その内容をそのまま関係部署に伝えて結果をまとめるだけの存在となるのではなく、市場の状況とトッキとして経験というスクリーニングをかけて、現在のトッキとして最適な提案を見極めるということです。そのことが業務の進行をスムーズにし、ひいてはお客様のご満足にもつながるものと信じています。

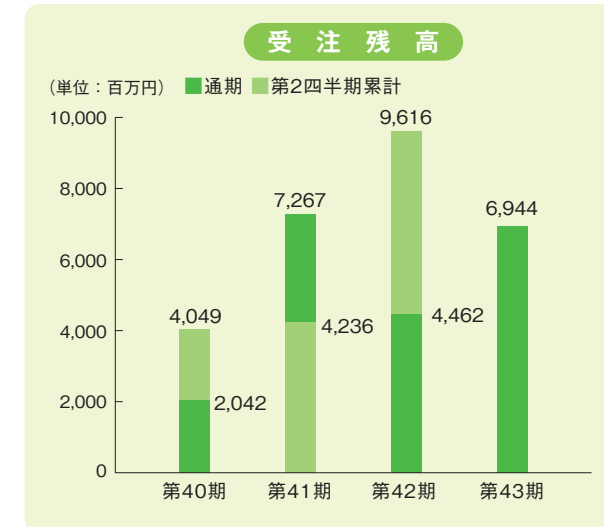
現在、私たちは、さまざまな製品を扱っていますが、いくつかの製品は急成長を見込むことができる市場にお納めするもので、市場の成長と自社の成長を重ね合わせることができると携わっているという充実感があります。1件のプロジェクトの金額は、案件によっては大規模なものとなりますので、非常に責任感とプレッシャーも感じますが、それが会社の発展に直結していることを自らのモチベーションとして、業務に取り組んでいます。

平成20年秋以降、世界的に景気の低迷局面となってきましたが、一部の顧客企業でも設備投資の再開の動きが明確になってきています。その動きの中で、新たな技術で更なる成長を目指されるお客様の声を聞き、その技術の実現に営業技術として貢献していきたいと思っています。





※第43期は決算期日を6月末日から12月末日に変更したため、平成21年7月1日から平成21年12月31日までの6ヶ月間となっております。



売上高は増加、黒字体質の定着へ

来期における連結業績見通しとしては、売上高は120億円を見込んでおります。しかしながら利益面につきましては、特に大型装置における価格競争の激化による影響や、製造装置の大型化・高性能化に対応した開発投資や設備投資による経費増などから、営業利益と経常利益はそれぞれ1億円、当期純利益は10百万円となる見込みであります。

来期の見通し

売上高	12,000 百万円
営業利益	100 百万円
経常利益	100 百万円
当期純利益	10 百万円

【連結貸借対照表】

(単位:百万円)

	第43期末 平成21年12月31日現在	第42期末 平成21年6月30日現在
(資産の部)		
流動資産	5,129	6,362
固定資産	3,198	3,299
資産合計	8,328	9,662
(負債の部)		
流動負債	1,739	2,584
固定負債	112	121
負債合計	1,852	2,705
(純資産の部)		
株主資本	6,475	6,948
資本金	6,572	6,572
資本剰余金	4,697	4,697
利益剰余金	△4,597	△4,124
自己株式	△197	△197
評価・換算差額等	0	8
純資産合計	6,476	6,956
負債純資産合計	8,328	9,662

【連結損益計算書】

(単位:百万円)

	第43期 平成21年 7月 1日～ 平成21年12月31日	第42期 平成20年 7月 1日～ 平成21年 6月30日
売上高	4,892	10,277
売上総利益	211	2,248
販売費及び一般管理費	696	1,456
営業利益又は営業損失(△)	△485	792
営業外収益	21	76
営業外費用	1	4
経常利益又は経常損失(△)	△465	864
特別利益	14	7
特別損失	17	269
税金等調整前当期純利益又は当期純損失(△)	△468	602
法人税、住民税及び事業税	4	8
法人税等調整額	△0	2
当期純利益又は当期純損失(△)	△472	590

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位:百万円)

	第43期 平成21年 7月 1日～ 平成21年12月31日	第42期 平成20年 7月 1日～ 平成21年 6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△403	216
投資活動によるキャッシュ・フロー	△82	△115
財務活動によるキャッシュ・フロー	△80	△50
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△566	50
現金及び現金同等物の期首残高	2,081	2,030
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	1	—
現金及び現金同等物の期末残高	1,516	2,081

連結財務諸表は、
要約したデータを掲載しております。

詳細データは
当社ホームページにてご確認ください。

<http://www.tokki.co.jp>

トッキ

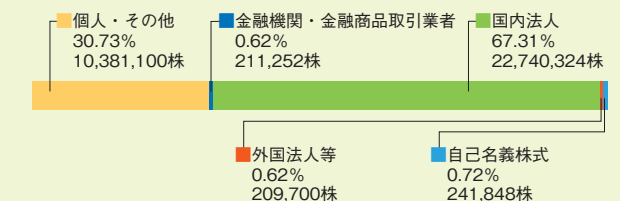
※第43期は決算期日を6月末日から12月末日に変更したため、平成21年7月1日から平成21年12月31日までの6ヶ月間となっております。

(平成21年12月31日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式の総数	33,784,224株
株主数	7,628名

所有者別株式分布状況



会社概要

商号	トッキ株式会社
本店所在地	新潟県見附市新幸町10番1号
設立年月日	昭和42年7月29日
資本金	6,572,646,400円
主な事業内容	真空技術応用製品の開発・設計・製造・販売
従業員数	単独：216名

役員 (平成22年3月25日現在)

代表取締役社長	津上 晃寿	取締役	新保 俊二
代表取締役副社長	柳 楽 卓司	取締役	鶴 川 浩
専務取締役	鳴海 廣治	常勤監査役	塩矢 富士夫
取締役	山口 登志雄	監査役	大塚 博之
取締役	小川 光雄	監査役	山田 雅且

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
キャノン株式会社	22,301,620	66.01
津上 晃寿	444,400	1.31
トッキ株式会社	241,848	0.71
津上 健一	203,400	0.60
UBS AG LONDON A/C IPB SE GREGATED CLIENT ACCOUNT	172,900	0.51
株式会社パワーズアソシエイト	120,000	0.35
藍澤不動産株式会社	81,000	0.23
トッキ取引先持株会	77,500	0.22
日本証券金融株式会社	75,500	0.22
トッキ従業員持株会	60,690	0.17

主な事業所

当 社	URL: http://www.tokki.co.jp
本 社	見附事業所
〒954-0076	新潟県見附市新幸町10番1号 TEL.(0258) 61-5050(代表)
新 潟 工 場	
〒950-3134	新潟県新潟市北区新崎293番26号 TEL.(025) 278-2290
東京オフィス	
〒104-0032	東京都中央区八丁堀二丁目21番2号 TEL.(03) 3551-3151
関西サービスステーション	
〒564-0044	大阪府吹田市南金田一丁目4番33号 橋本第2ビル3階 TEL.(06) 6310-9021
九州サービスステーション	
〒880-0915	宮崎県宮崎市恒久南二丁目1番1号 城南センタービル1F TEL.(0985) 42-6763